



最上エコポリスの実現  
=豊かな自然 輝くもがみ=

# 小国川だより

流域の皆様にご最上小国川治水対策について、わかりやすく正確にお知らせします。

## 小さなダム・大きな仕事 最上小国川ダム

第14号

平成21年10月21日発行

山形県 最上総合支庁  
建設部 河川砂防課

最上小国川流域の環境を守る活動をされている地元の方々をご紹介します



最上町明神地区の学校林

県内各地に、河川のゴミ拾いや清掃、草刈りや花植えなどの活動されている団体（河川アダプト団体）がありますが、最上小国川流域で活動されているの方々をご紹介します。

今回ご紹介するのは「明神川桜を育てる会」です。会では明神川の河川環境を守る活動をしています。代表の岸享(きしとる)さんに詳しい状況をお聞きしました。



### 「明神川桜を育てる会」

- 会を立ち上げるきっかけについてですが、以前から、富山の桜並木のようなものをどこかにできないものかと思っていたんです。

平成16年、川崎市の方から最上町に千本の桜の苗木の寄付があったので、明神川に植えたらいいという意見が出ました。地元でも何人かが賛同してくれたので、明神川に桜を植えることになったんです。

その後、県の河川アダプト団体の話を聞いて、これを機会に立ち上げることになりました。

- 具体的な活動としては、春はゴミ拾い、その後草刈りを数回、さらに木の消毒、秋には木の雪囲いをしています。年間5、6回程度の活動をしています。明神地区集落全戸の22戸が構成メンバーとなって活動しています。

- また、最近では、子どもたちが主体となって、学校林の中にログハウスを建てる活動もしています。
- 都会にいる孫たちは、川遊びをすると真剣に魚類を観察するんです。子どもたちに遊んでもらえるような場所になるといいですね。



### 吉村知事が、最上小国川ダムの現地を視察しました

吉村知事は、9月29日(火)の午後、最上小国川の赤倉温泉地区と、ダム建設予定地を視察しました。赤倉地区では、温泉街にある虹の橋の上で、これまでの洪水の状況について、映像や写真で説明を受けたあと、川底から湧き出ている温泉に直接手を触れて確認しました。その後、ダム建設予定地で、ダム計画や環境への配慮について、説明を受けました。また、報道機関から質問に対して、吉村知事は次のように述べ、改めてダム事業を進める考えを示しました。

#### 【吉村知事の発言】

- ◎現地で濁流の時の映像を見せてもらい、改めて地域の皆さんがおっかない思いをされてるんだなと実感しました。
- ◎一番大切なことは、住民の方々の安全と安心です。
- ◎環境については、アユに影響のないように配慮してまいります。
- ◎穴あきダムが望ましいと思います。
- ◎(国に対して)ぜひ現地を見ていただき、地域の実情から、必要なものは必要だと訴えていきたい。



虹の橋で説明を受ける吉村知事



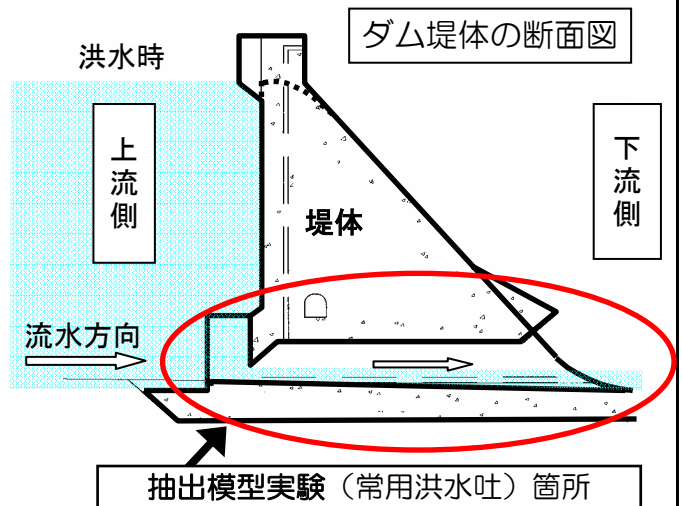
川から湧き出たお湯に触れる吉村知事

# 水理模型実験を実施しました・・・どのようなことを調べるのか

ダム堤体の設計にあたっては、形や寸法が決まると計算値どおりに、安全に放流できることを確認するため、水理模型実験をおこないます。

常用洪水吐（右図参考）については、流せる量は、公式によって算出していますが、実際に模型実験をしてみると、地形などさまざまな条件で、流量が微妙にちがうことがあります。

水理模型実験では、「全体模型実験」と「抽出（ちゅうしゅつ）模型実験」をおこないました。「全体模型実験」は、ダムの下流部からダムの上流部まで、現地の地形を含めた模型をつくり、水を流して調べました。「抽出模型実験」は、常用洪水吐（右図参考）を抜き出して、常用洪水吐が流せる量などを調べる実験をおこないました。



**【常用洪水吐（じょうようこうすいばき）】**とは洪水の流入に対し、洪水調節に用いる放流設備のことです。

今回は、2つの実験のうち常用洪水吐の「抽出模型実験」についてお知らせします。

## 【抽出模型実験】

今回は、各寸法が割りきれぬ数字になるように1/12.5の模型をつくりました。

内部の水の流れがよく見えるように透明なアクリル板を使っています。

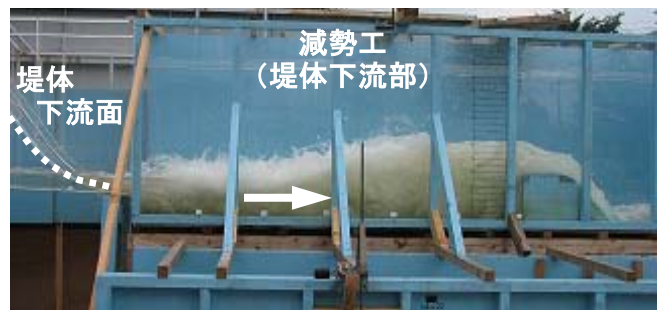
高水槽には2万リットルの水が貯められます。そこから常用洪水吐に、写真のように水を流してみると、内部での状況がよくわかりました。

実験では、貯水位と放流量の関係を計測したりダムへのさまざまな影響について調べました。

## 【実験結果】

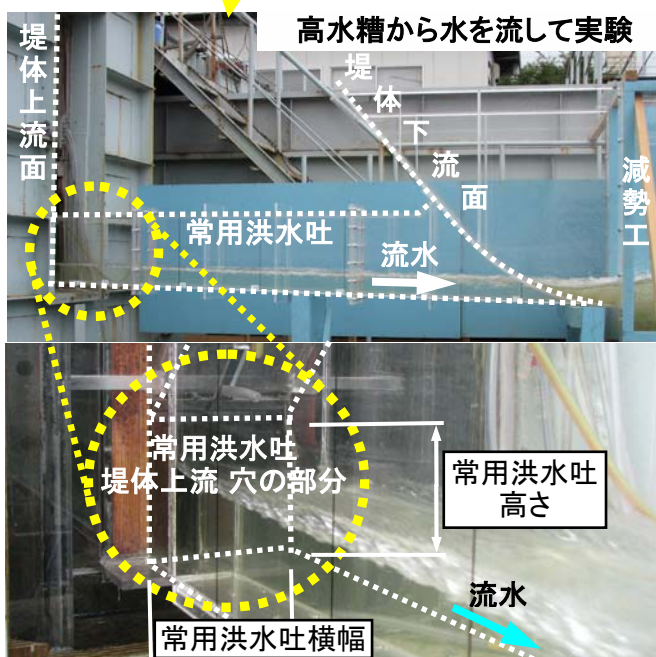
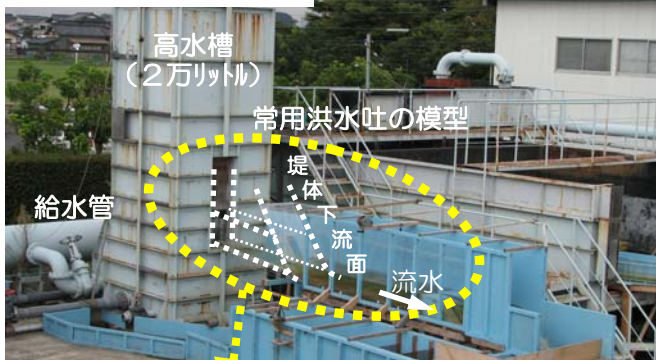
実験により流量を計測した結果、計算による洪水吐の寸法では、洪水時に計算より水が多く流れることがわかりました。具体的には、計算値より実験の方が約3%多く流れました。

このため、常用洪水吐の大きさについて、変更するかどうか、検討することになりました。



次回は、全体模型実験について、お知らせいたします。

## 抽出模型（常用洪水吐）実験施設の全景 1/12.5模型



発行：山形県 最上総合支庁 建設部 河川砂防課  
最上小国川ダム建設室 佐藤・高橋  
〒996-0002  
山形県新庄市金沢字大路上 2034  
お問合せ先 電話 0233-29-1407  
Email - 【前画面を参考にして下さい。】

バックナンバーは県HPからダウンロードできます。アドレスは下記のとおりです。

[http://www.pref.yamagata.jp/regional/mogami\\_bo/news/news/7314074ogunigawa\\_news.html](http://www.pref.yamagata.jp/regional/mogami_bo/news/news/7314074ogunigawa_news.html)